

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04803

研究課題名(和文) 社会科における市民性教育の学習評価に関する理論的・実践的研究

研究課題名(英文) Theoretical and practical research on learning evaluation of citizenship education in social studies

研究代表者

藤本 将人 (FUJIMOTO, Masato)

宮崎大学・教育学部・准教授

研究者番号：10404229

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、わが国の社会科において有効な学習評価の理論と方法を開発し、それらの知見に基づく評価実践のモデルを追試可能な形で示すことにある。

わが国の社会科において有効な学習評価の理論と方法を見出すために、現代のアメリカ社会科教育界が研究と実践を積み重ねている市民性育成教育の学習評価諸理論に着目する。分析から得られる思想・原理に示唆を得た上で、わが国で通用する評価実践を開発する。宮崎大学附属小学校、附属中学校、宮崎県内における公立小学校、中学校、高等学校にて開発した評価実践を検証し、その有効性を証明するところまでを研究の射程とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、評価を中心とした教育原理を解明し、実際の教育現場で使用可能な分析ツールとモデルを開発するところに特色と独創性がある。本研究は、我が国で活用可能な実践方法をモデル化して示し、指導と評価の一体化した授業を構築するための重要な研究となる。

わが国の社会科において有効な学習評価の理論と方法を開発し、それらの知見に基づく評価実践のモデルを追試可能な形で示し、さらにその有効性を検証するところまでを射程とし、研究を行った。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop effective learning evaluation theories and methods in social studies in Japan, and to show a model of evaluation practice based on those findings in a form that can be retested.

In order to find effective learning evaluation theories and methods in Japan's social studies, we will focus on the learning evaluation theories of civic development education that the modern American social studies education community is accumulating research and practice. After getting suggestions from the ideas and principles obtained from the analysis, we will develop evaluation practices that are valid in Japan. The scope of the research was to verify the evaluation practices developed at Miyazaki University Elementary School, Junior High School, and public elementary schools, junior high schools, and high schools in Miyazaki Prefecture, and to prove their effectiveness.

研究分野：社会科教育学，市民性教育

キーワード：学習評価 市民性 社会科 アメリカ

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の目的は、わが国の社会科において有効な学習評価の理論と方法を開発し、それらの知見に基づく評価実践のモデルを追試可能な形で示すことにある。

わが国の社会科において有効な学習評価の理論と方法を見出すために、現代のアメリカ社会科教育界が研究と実践を積み重ねている市民性育成教育の学習評価諸理論に着目する。分析から得られる思想・原理に示唆を得た上で、わが国で通用する評価実践を開発する。宮崎大学附属小学校、附属中学校、宮崎県内における公立小学校、中学校、高等学校にて開発した評価実践を検証し、その有効性を証明するところまでを研究の射程とする。

研究開始当初の日本の社会科教育における評価実践を取り巻く現状(課題・背景)は、以下の通りであった。

- ( ) 2001年4月、戦後直後から採用された「相対評価」を否定して、「目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)」を全面的に採用するように、公的文書により、評価に関する方針転換が通知された。
- ( ) この公的文書による方針の転換は、教育現場の評価実践に甚大な影響を及ぼしたが、現場教員から具体的授業に対応させた評価の方法が確立できていないという、実践する上での根本的な課題が提出されることとなった。
- ( ) 特に、評価情報を分析する方法、また分析結果を授業・学習者にフィードバックする方法が理論的に提供されていないという意見が教育関係諸学会で提出された。

(田中耕治編著『新しい教育評価の理論と方法』、日本標準、2002.)

上記の課題を直接的に克服する日本の先行研究は皆無である一方、アメリカ社会はずでにこのような教育情勢を経験してきており、現場教員・研究者コミュニティ双方による学習評価理論の研究が世界各国のそれらに比べても圧倒的に多く積み上げられてきた。1990年から研究開始当時まで、アメリカでは評価技法の開発と普及に関する博士論文が爆発的に提出されており、研究成果に基づく書籍も出版され始めている(Walter C.Parker, *SOCIAL STUDIES TODAY*, routledge, 2010.)。

## 2. 研究の目的

本研究では、上の( )～( )の課題を克服すべく、目的を「分析」と「開発」の二つに分けて設定する。「分析」については、アメリカ市民性育成教育(初等教育、中等教育、高等教育における社会科教育が該当)における学習評価諸理論について、「理論書及び関連教材における記述内容」「授業実践記録/評価実践記録の記述内容」「アメリカ人社会科教育研究者が行った学習者の認識変容分析に関する記述内容」の三つの観点を含む事象(書籍、博士論文)を分析対象として設定し、以下の点を明らかにしていくこととした。

## 3. 研究の方法

「分析」についての具体的な研究方法は、以下の通りである。

- (1) 現在のアメリカ社会科が育成を目指す人物像とはどのようなものか。  
(目標構造の抽出)

- (2) その目標を達成するために、どのような授業が組まれているのか。  
(授業構成理論の抽出)
- (3) その授業では、学習成果の評価の仕組みがどのように組み込まれているのか。  
(評価手法の分析)
- (4) 評価の結果得られた情報は、具体的にどのように分析されているのか。またその分析ツールはどのように開発されているのか。(情報の分析手法の検討)
- (5) 評価情報は授業や学習者の学びにどのようにフィードバックされているのか。(情報の利用方法の検討)
- (6) (1) (2) (3) (4) (5)という研究手続きをとることで、学習評価の原理と評価技法を開発する際の手立てを明らかにする。

「開発」については、得られた原理と技法を応用し、わが国の社会科において有効な学習評価の実践モデルを創っていくことを目的とする。以下のような手続きを進めていくこととした。

- (7) 評価の目的は何かを定める。(評価目標の確定)
- (8) この目的を達成するために学習成果の何を抽出するのかを定める。(評価内容の確定)
- (9) ターゲットとする学習成果をどのように抽出するのかを定める。(評価方法の確定)
- (10) 抽出した情報をどのように価値づけるのかを定める。(評価規準・基準の確定)
- (11) 決定した評価結果(成績及び授業改善のための指針)を子ども・教師にどのようにフィードバックするのかを定める。(授業の制御・子どもの育ちに関する帰還情報の確定)
- (12) (7) (8) (9) (10) (11)という研究手続きをとることで、学習評価実践を開発する過程(モデル)を明らかにする。
- (13) 開発したモデルをもとに、宮崎大学附属小学校、附属中学校、宮崎県内における公立小学校、中学校、高等学校にて検証し、その有効性を吟味する。(評価実践モデルの活用・応用)

#### 4. 研究成果

本研究の成果に基づき執筆され、公にされた書籍・論文・月刊誌・報告書は以下の通りである。

##### 【書籍】

藤本将人「5節 社会科の授業研究」原田智仁編著『初等社会科教育の理論と実践 - 学びのレリバンスを求めて -』教育情報出版、印刷中。

藤本将人「PISAと言語力」「ブルーム・タキソノミー」「コンピテンシー」「絶対評価/相対評価」「科学的管理法」「真正な評価」棚橋健治・木村博一編著『社会科重要用語事典』明治図書、2022年3月、p.104,p.121,p.122,p.187,p.197,p.198.

藤本将人「第4章 中等社会系教科の学習評価法 Q4 授業の工夫改善につながる学習評価のあり方について説明しなさい」國分麻里・川口広美編著『新・教職課程演習 第17巻 中等社会系教育』協同出版、2021年12月、pp.111-115.

藤本将人「第6章 中学校社会科・高等学校公民科教育の授業分析・開発・評価 - 授業はど

のように見て、そこから何を学び、どのように授業づくりに活かすのか - 」社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社、2020年3月20日、pp.61-70。

藤本将人「学習評価の工夫」日本公民教育学会編『テキストブック公民教育』第一学習社、2019年12月1日、pp.232-234。

### 【論文】

鬼塚拓・藤本将人「民主主義の実践が問い直す社会科評価の方法 - 「社会的な見方・考え方を選択して論述する問題」を事例として - 」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第33号、2021年12月22日、pp.31-40。【査読あり】

鬼塚拓、竹内元、藤本将人、椋木香子「宮崎大学教育学部附属中学校におけるキャリア教育実践の特質と課題(2) - 媒体としてのキャリア・パスポート - 」宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター『宮崎大学附属教育協働開発センター紀要』第29号、2021年3月、pp.1-15.ISSN 2188-6636【査読なし】

竹内元、小林博典、藤本将人、吉村功太郎、遠藤宏美「宮崎県における小規模校の学校づくりに関する基礎的研究」宮崎大学教育学部『宮崎大学教育学部紀要』第95号、2020年8月、pp.202-218。【査読なし】

鬼塚拓、竹内元、藤本将人、盛満弥生、小林博典、安影亜紀、山下辰弥、椋木香子「宮崎大学教育学部附属中学校におけるキャリア教育実践の特質と課題」宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター『宮崎大学附属教育協働開発センター紀要』第28号、2020年3月、pp.31-46.ISSN 2188-6636【査読なし】

玉井慎也、藤本将人「評価概念の細分化時代における社会科評価研究のあり方の考察 - 「学習としての評価」に重点を置いた社会科評価研究 - 」宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター『宮崎大学附属教育協働開発センター紀要』第28号、2020年3月、pp.95-110.ISSN 2188-6636【査読なし】

永倉泰治・緒方宏文・藤本将人「社会へのかかわり方を選択・判断できる子どもの育成 - 宮崎大学教育学部3附属学校園の教育目標「かかわる力」を具現化した小学校社会科授業の報告 - 」宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター『宮崎大学附属教育協働開発センター紀要』第27号、2019年3月22日、pp.193-203.ISSN 2188-6636【査読なし】

藤本将人「日本における社会科評価研究の歴史的展開 - 米国社会科の影響の考察 - 」全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第50集、2017年3月、pp.121-130。【査読あり】

### 【月刊誌・報告書】

藤井良宜、藤本将人、盛満弥生、半田健「中学生・高校生の将来の職業に対する意識とそれに影響を与える因子の検討」宮崎市地域貢献学術研究『宮崎市の人口減少問題に対

する現状把握と課題解決に向けた提案研究報告書』令和4年(2022年)3月, pp.97-124.

藤本将人「近現代史と政治が分かる「この人物」お宝ネタ&エピソード」明治図書『社会科教育』2019年9月号, 2019年9月1日, pp.32-33.

藤本将人「新学習指導要領で,社会科の”評価”はどう変わるか」教育出版『中学社会通信』2019年8月31日 pp.2-5.

藤本将人「新学習指導要領で,社会科の”問い”はどう変わるか」教育出版『中学社会通信』2019年4月1日 pp.2-5.

藤本将人「この力」を鍛える新テスト 「指導の機能」を大切にしたい問題づくり」明治図書『社会科教育』2018年9月号, 2018年9月1日, pp.24-25. ISSN 2188-4269

藤本将人「学びを起動させる仕組みをいかに埋め込むか」明治図書『社会科教育』2017年4月号, 2017年4月1日 pp.14-15.

また,本研究の成果に基づいた発表・講演については,以下の通りである。

#### 【発表・講演】

藤本将人「主体的・対話的で深い学び/学習評価/授業づくり」令和4年度川南町教育研究所第2回研修会, 2022年5月26日.

藤本将人「なぜ社会科教育学を学ぶことが必要なのか」令和3年度 宮崎県中学校教育研究会社会科部会 第2回研究部総会, 2022年2月28日, 於: オンライン.

棕木香子・竹内元・遠藤宏美・盛満弥生・小林博典・深見奨平・藤本将人・野邊孝大・堺泉洋「キャリア教育研究プロジェクト」宮崎大学教育学部研究プロジェクト報告, 2022年2月21日, 於: オンライン.

鬼塚拓, 藤本将人「民主主義の実践が問い直す社会科評価の方法 - 子どもたちからの異議申し立ては教師にどのような「問題」をもたらしたのか - 」社会系教科教育学会第33回研究発表大会, 2022年2月19日, 於: 兵庫教育大学(オンライン開催).

藤本将人「ICT活用を含む主体的・対話的で深い学びの実践研究」宮崎県教育庁高校教育課 資質・能力研究会, 2021年10月29日, 於: 宮崎県立都城泉が丘高等学校.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 鬼塚拓, 竹内元, 藤本将人, 椋木香子	4. 巻 第29号
2. 論文標題 「宮崎大学教育学部附属中学校におけるキャリア教育実践の特質と課題(2) - 媒体としてのキャリア・パスポート - 」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『宮崎大学附属教育協働開発センター紀要』	6. 最初と最後の頁 pp.1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 竹内元, 小林博典, 藤本将人, 吉村功太郎, 遠藤宏美	4. 巻 第95号
2. 論文標題 「宮崎県における小規模校の学校づくりに関する基礎的研究」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『宮崎大学教育学部紀要』	6. 最初と最後の頁 pp.202-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 玉井慎也, 藤本将人	4. 巻 第28号
2. 論文標題 「評価概念の細分化時代における社会科評価研究のあり方の考察 - 「学習としての評価」に重点を置いた社会科評価研究 - 」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『宮崎大学附属教育協働開発センター紀要』	6. 最初と最後の頁 pp.95-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 鬼塚拓, 竹内元, 藤本将人, 盛満弥生, 小林博典, 安影亜紀, 山下辰弥, 椋木香子	4. 巻 第28号
2. 論文標題 「宮崎大学教育学部附属中学校におけるキャリア教育実践の特質と課題」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『宮崎大学附属教育協働開発センター紀要』	6. 最初と最後の頁 pp.31-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本将人	4. 巻 2019年秋号
2. 論文標題 「新学習指導要領で、社会科の”問い”はどう変わるか」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中学社会通信』	6. 最初と最後の頁 pp.2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本将人	4. 巻 2019年春号
2. 論文標題 「新学習指導要領で、社会科の”評価”はどう変わるか」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中学社会通信』	6. 最初と最後の頁 pp.2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本将人	4. 巻 2019年9月号
2. 論文標題 「近現代史と政治が分かる「この人物」お宝ネタ&エピソード」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『社会科教育』	6. 最初と最後の頁 pp.32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永倉泰治・緒方宏文・藤本将人	4. 巻 27
2. 論文標題 「社会へのかかわり方を選択・判断できる子どもの育成 - 宮崎大学教育学部3附属学校園の教育目標「かかわる力」を具現化した小学校社会科授業の報告 - 」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『宮崎大学附属教育協働開発センター紀要』	6. 最初と最後の頁 pp.193-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本将人	4. 巻 2018年9月号
2. 論文標題 「この力」を鍛える新テスト 「指導の機能」を大切にしたい問題づくり」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『社会科教育』	6. 最初と最後の頁 pp.24-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本将人	4. 巻 第50集
2. 論文標題 「日本における社会科評価研究の歴史的展開 - 米国社会科の影響の考察 - 」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 全国社会科教育学会 『社会科教育論叢』	6. 最初と最後の頁 pp.121-130.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本将人	4. 巻 2017年4月号
2. 論文標題 「学びを起動させる仕組みをいかに埋め込むか」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 明治図書 『社会科教育』	6. 最初と最後の頁 pp.14-15.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 鬼塚拓, 藤本将人
2. 発表標題 「教師と子どもが協働して取り組む社会科評価の特質 - 「社会的な見方・考え方を選択して記述する問題」を事例として - 」
3. 学会等名 社会系教科教育学会第32回研究発表大会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 竹内元, 藤本将人, 遠藤宏美
2. 発表標題 「宮崎県における学校の小規模校化と授業づくりの実践課題 - 集合学習に関する二つの教育委員会へのヒアリング調査の比較を通して - 」
3. 学会等名 令和二年度日本教育大学協会研究集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 棕木香子, 竹内元, 野邊孝大, 遠藤宏美, 盛満弥生, 小林博典, 藤本将人, 境泉洋, 深見奨平, 鬼塚拓, 坂口瑞穂
2. 発表標題 「宮崎大学教育学部附属中学校におけるキャリア教育実践 - 仕事分析から仕事を創造し, 自分の生き方を考える - 」
3. 学会等名 宮崎大学産学・地域連携センター第27回技術・研究発表交流会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「主体的・対話的で深く学び続ける児童生徒の育成 - 学力向上を目指す授業づくりを通して - 」_小林市「学習指導及び生徒指導相談充実事業」
3. 学会等名 小林市「学習指導及び生徒指導相談充実事業」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「わかった!できた!」と学ぶ喜びを味わえる児童生徒を育成するために」
3. 学会等名 小林市学習指導及び生徒指導相談充実事業(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本将人, 鬼塚拓, 池田泰弘
2. 発表標題 「中学校におけるカリキュラム・マネジメントの実際 - 総合的な学習の時間と社会科を架橋する経営の論理 - 」
3. 学会等名 日本教科教育学会第46回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の工夫」
3. 学会等名 小林市「学習指導及び生徒指導相談充実事業」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「西都児湯大会にむけて(総括) - 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の工夫 - 」
3. 学会等名 令和元年度宮崎県中学校教育研究会社会科部会夏季研修会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「集団や社会で何かを決めようとするとき, 大切なことは何かについて考える」
3. 学会等名 美郷町立西郷中学校での総合的な学習の時間外部講師(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「小中における社会科学習の違い」
3. 学会等名 高鍋町教育委員会研修（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「令和元年度第46回宮崎県中学校社会科教育研究大会「西都・児湯大会」総括 - 社会について考え続ける主体を育む社会科学習の創造 - 」
3. 学会等名 令和元年度第46回宮崎県中学校社会科教育研究大会「西都・児湯大会」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「主体的・対話的で深い学びの評価」
3. 学会等名 宮崎県高等学校教育研究会地理歴史科公民科研究会地理部会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「授業を見る方法，コメントをつくる方法について - 論点の提供 - 」
3. 学会等名 宮崎県中学校教育研究会社会科部会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鬼塚拓, 藤本将人
2. 発表標題 「社会科授業におけるパターン・ランゲージの可能性」
3. 学会等名 社会系教科教育学会第31回研究発表大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「社会科における「選択・判断」の理論と事例」
3. 学会等名 宮崎県小学校教育研究会社会科部会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「社会科評価研究の課題と展望」
3. 学会等名 宮崎県中学校社会科教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「社会参画力の育成と効果の検証 - 北海道新聞NIE推進センターと北海道教育大学釧路校との共同研究を事例に - 」
3. 学会等名 日本NIE学会第15回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「社会科評価研究の課題と展望 - 社会科評価実践の目的・目標論の考察 - 」
3. 学会等名 全国社会科教育学会第67回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「社会科の授業づくり」
3. 学会等名 平成30年度宮崎県教育研究連合会次世代リーダー養成研修第3回研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「社会の見方・考え方」
3. 学会等名 平成30年度宮崎県中学校教育研究会社会科部会夏季研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「子どもをみとるための評価」
3. 学会等名 平成30年度宮崎大学教育学部附属中学校公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「過去の遺産を訪ね，新しきを知る - 中社研の研究蓄積から言えること - 」
3. 学会等名 平成29年度宮崎県中学校教育研究会社会科部会第2回研究部総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「アメリカ社会科における学習評価論の分析 - 学習動機への刺激と評価作業との関連性に着目して - 」
3. 学会等名 全国社会科教育学会第66回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「教科教育研究における学習評価研究の歴史的展開 - 市民性教育に着目して - 」
3. 学会等名 日本教科教育学会第43回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「授業研究のフレームワークと授業評価 - 総括 - 」
3. 学会等名 平成29年度宮崎県中学校教育研究会社会科部会夏季研修会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「社会科教育学研究の余白 - 研究しながら研究以外にどのようなことを考えているのか - 」
3. 学会等名 平成29年度宮崎県中学校教育研究会社会科部会夏季研修会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「研究授業の見方・考え方 - 授業評価を機能させるために - 」
3. 学会等名 平成29年度第4回西米良村小中合同主題研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本将人
2. 発表標題 「授業評価における暗黙知の言語化」
3. 学会等名 平成29年度宮崎県中学校教育研究会社会科部会第一回研究部総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 藤本将人	4. 発行年 2019年
2. 出版社 第一学習社	5. 総ページ数 255
3. 書名 『テキストブック公民教育』	

1. 著者名 藤本将人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学術図書出版社	5. 総ページ数 163
3. 書名 『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鬼塚 拓  (Onitsuka Taku)	宮崎大学・教育学部附属中学校・教諭    (17601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------